

清輔輿儀抄  
四





これと云ふは、さうも、れ、あ、の、病、と、い、  
ふ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、も、さ、う、い、ふ、と、い、ふ、  
せ、れ、と、い、ふ、の、あ、ち、な、の、と、い、ふ、  
さ、う、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、

さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、

二、さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、

さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、

三、さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、  
さ、れ、と、い、ふ、は、さ、れ、病、と、い、ふ、



月乃くはるもわきまをわかれ日て  
あけしとよとあひくはる月をみ  
る月と朝とよとてあひくはる  
七

月乃くはるもわきまをわかれ日て

月乃くはるもわきまをわかれ日て  
あけしとよとあひくはる月をみ  
る月と朝とよとてあひくはる  
七

月乃くはるもわきまをわかれ日て  
あけしとよとあひくはる月をみ  
る月と朝とよとてあひくはる  
七

秋

月乃くはるもわきまをわかれ日て  
あけしとよとあひくはる月をみ  
る月と朝とよとてあひくはる  
七

あつち

九

秋の風はのちのちと

いふれあふもなれ

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつちのちのちと

あつち

十

あつちのちのちと

はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ

はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ

はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ

はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ

はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ  
はるかなる花のうらみ

數書<sup>かず</sup>あるは

一

十

一

一

一

一

一

壹

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一



そとにひらきあけ

今も昔も  
 今も昔も  
 今も昔も  
 今も昔も

思ふぬまゝに又 澤野翁云  
これちとの法をそのなりと云ふ

ひげあふるをわらへりては  
たふれちもいとふきさくふとせう  
ちちの紙も也少くゆくんがね  
思ふぬまよひる又伊勢守云

大

[illegible]

開の戸をあけらるるをひらきゆきまは  
 かりけるをさひらきまはなる  
 七 なみえさかひつひあかりの

元

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつては

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ

あつては

あつてはつたのじつにあらはれ

あつてはつたのじつにあらはれ



如くもい得るるを藤子とてまゐり  
 とたのるもいふはるゝやうなる入ひ  
 川より此よりとてあはれなる入ひ  
 うちなる中よあゝ又此よりなるも  
 是れとてあはれなるもはるゝやう  
 智の拾遺抄のり

あはれなるあやめはあはれ

とよめの婦人陪従ものうへも一双れあひ  
やうの花をかしうぬきいれらるるなり  
又かしとやいふとも云ふよりや集云

ふすもちちとたちぬる兒を  
ふすもちちとたちぬる兒を

わかれはなぬきもなにかきくもてすうと  
ふかしうあひくもてす

五十五  
あまのつらねわともとを  
うづらのさやまそりのさやま

えふふふ 縁とふふふふふふふふふふ  
 うふふふふふふふふふふ 浮城物語云  
 われふふふふふふふふふふ

とうへはけつちをさうし  
 わまへきんちとてちきひれこのち  
 とちとすちあひめてちをさうし

世  
 も涙ながれうちははきこえうはそ  
 めあうひうととふなりれ  
 けもなうみられけうとてうのすめ  
 うさくたひちうのえをきううみちいさ  
 うふもものはさうううみちいさ  
 うさうううううううううううう  
 共 心移れうのあふれうううううう

[illegible][illegible]



ゆふやと夜半とよめる

世一 ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

花馬 知道とゆふやと夜半とよめる

管仲 大馬とゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

世二 ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

又 建 峯 ともゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

雜

世三 ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる

ゆふやと夜半とよめる



焚

阿婆てなになあうふふむまろのれ  
うううううううううううううう

うきあもれうううううううううううううう

あゝ雄略天皇の時丹後國余社郡うううう

浦島の子とふもれあうううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

あゝ女封うううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

あゝううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

焚 ううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

あ

焚 ううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううう



とくしつうの妙さとてあへ  
 枇杷大匠近藤つとむれ  
 と兒よきまをうけりや  
 もとすもふとあひ但敷長  
 中より一とみたり  
 やさしきもののいづれ又  
 れ大匠との所らん人  
 うそなりしらんやその  
 ようはもとこそとて  
 わるもうちとて取のた  
 てわらんとははと  
 批一 伊それうきもの  
 をやこれうかぬ  
 あはれのものともな  
 なるにほかり

子に云ふ所の如くともさあつたのいふ事  
 ともうあつたともさう云ふ布ちの大おほ神かみとも  
 神かみともいふ所のいふ事ともさういふ  
 事ともさういふ事ともさういふ事とも  
 字の如くともさういふ事ともさういふ  
 事ともさういふ事ともさういふ事とも  
 事ともさういふ事ともさういふ事とも

三  
ふりぬくはれつゝわのちきと  
うらちのぬくはれつゝ  
是のちのぬれつゝわのちきと  
ふりぬくはれつゝわのちきと  
ふりぬくはれつゝわのちきと

三石

世

[illegible]

毛

書

么好生毛羽惡吹毛求瘡

廿四

[illegible]

号

7

二

少

わいふも山崎の如くわうふの如

今人其言曰

子

約

1

3

卅五

ふをゆゑにわびはあらず

武

限の松山を建れしうむわのさるのやと

三石

班

[illegible]

毛

書

么好生毛羽惡吹毛求瘡

卅四

しるしをいふにせよの山をさうする

号

7

二

少

わいふも山崎の如くわうふの如

今人其有以爲然者

子

約

1

3

卅五

ふをゆゑにわびはあらず

武

限の松山を建れしうむわのさるのやと

あつぬんあつん——とささとしふきをかたしむ  
はらふもやふもてきふくゆふくは松は  
ひ——あつにひつとふ他卿あふ元徳と  
ふひふ人の任はをらむふよりあてふ人  
むくふ人のふれ部いふひふふふふふふふ  
わのふ人もふひふあふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
にひふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふひふふふふふふふふふふふふふふふふ  
あつぬんあつん——とささとしふきをかたしむ  
はらふもやふもてきふくゆふくは松は  
ひ——あつにひつとふ他卿あふ元徳と  
ふひふ人の任はをらむふよりあてふ人  
むくふ人のふれ部いふひふふふふふふふ  
わのふ人もふひふあふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
にひふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あつぬんあつん——とささとしふきをかたしむ  
はらふもやふもてきふくゆふくは松は  
ひ——あつにひつとふ他卿あふ元徳と  
ふひふ人の任はをらむふよりあてふ人  
むくふ人のふれ部いふひふふふふふふふ  
わのふ人もふひふあふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
にひふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふ



もきしとてさうしんともいふをいふは但し  
の義をいふゆゑともいふ又貫之<sup>つひ</sup>の言  
とていふはいふにたゞとていふ  
やうにさういふともいふ  
さういふ

實

莞 せうりやとていふの  
やうにさういふ  
とていふやとていふ  
のさういふとていふ

氏のさういふ  
いふとていふ

